

「公益財団法人古代学協会」賛助会員ご入会のご案内

公益財団法人古代学協会
理事長 龐谷 壽

謹啓

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、古代学協会は、角田文衛博士によって1951(昭和26)年10月に設立され、学術誌『古代学』の創刊を通じて内外研究者と連携し、総合的かつ客観的に古代史の研究を推進するとともに、学術文化の向上発展に寄与することを目的としてまいりました。

1957(昭和32)年1月に財団法人の認可を得、1967(昭和42)年4月には、各界のご支援を得て、旧日本銀行京都支店(重要文化財)の譲渡を受け、翌年5月に“平安博物館”を開館いたしました。一方協会は、1957(昭和32)年8月に『古代学』の普及誌として月刊誌『古代文化』を創刊し(第58巻からは季刊)、正会員や会友との親睦を図るとともに、学界消息や各種調査、発見の情報を掲載するなど気楽に読める楽しい雑誌を目指しました。

1986(昭和61)年4月、平安建都1200年を期して創設された京都府京都文化博物館の設立に協力するため、協会は京都府に平安博物館を移管しましたが、1988(昭和63)年9月には、京都文化博物館別館となった赤煉瓦造りの建物内に新たに“古代学研究所”を設置いたしました。

このようにして歴史を重ねてきた協会ではありましたが、厳しい社会情勢の影響を受け2006(平成18)年10月からは規模を縮小して新たな研究活動を再開し、2013(平成25)年4月1日に内閣総理大臣の認定を受け、「公益財団法人古代学協会」として新たなスタートを切って現在にいたっております。

現在は、季刊誌『古代文化』発行、年報『初音』の作成、古代学協会だより『土車』の発行の他、将来性ある若手研究者を奨励・支援することを意図した「角田文衛古代学奨励賞」を設け、『古代文化』への投稿論文の中から秀作を選んで表彰し、隔年で授賞式と公開記念講演会を開催しております。また普及啓発事業として、「古代史を基礎から学ぶ」をキャッチフレーズに「古代学講座」を開講するとともに、公開講演会を年に2回程度開催し、多くの方に「古きもの」を学ぶ楽しさを体感していただいております。また顕彰事業として、平安遷都から鎌倉時代にいたる京都市内の史跡、すなわち日本文化を彩る人物や宮殿、邸宅ゆかりの地に駒札、歌碑、銘板などを建て、参りましたが、引き続き活動を続けています。

更に、本来の研究事業につきましても、考古学と文献史学の両面において、世界史的な観点からの研究を続けているところでございます。

しかしながら、ご承知の通り、公益財団法人の財源は会費に頼っているのが現状で、設立時の寄付金も長引くマイナス金利の下では減少の一途を辿り、地域に貢献するための新たな事業を起こす資金にも事欠く現状でございます。このような状況下ではございますが、平成29年度から「角田文衛の古代学」全4巻を発行し、平成30年度には、京都の博物館史に一石を投じた平安博物館の回顧展を開催し、これまでに収集した文献や、平安京や海外の発掘による遺物、貴重な研究資料等を公開するなど、地道な活動を続けております。

また、2018(平成30年)8月20日より継続して、税額控除証明を取得しております。別添の証明書の提示により賛助会費の40%が税金から控除されますので、何卒当協会の置かれている窮状をご理解いただき、是非賛助会員としてご入会の上、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬白